

## 事後評価報告書(日-イスラエル研究交流)

### 1. 研究課題名:「細胞除去/全肝マトリックスを基盤とし、ヒトES細胞由来肝細胞を用いた補助 肝臓グラフトの開発とその移植」

### 2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:慶應義塾大学医学部 教授 北川 雄光

2-2. 相手側研究代表者:ヘブライ大学生物工学部 上級講師 Yaakov Nahmias

### 3. 総合評価: ( A )

### 4. 事後評価結果

#### (1)研究成果の評価について

生きている細胞をすべて洗い流した臓器の骨格だけの構造が、ヒトの幹細胞を用いた肝細胞への分化誘導と成熟にどのような影響を与えるか解析し、その応用に発展させるという日本とイスラエル側のそれぞれの得意分野の提供の機会になった。その結果、ES細胞並びにiPS細胞のマトリックス内における動態を明らかにし、将来的なiPS細胞の応用性を高めた点は評価できる。

#### (2)交流成果の評価について

日本側への訪問、相手国側への訪問が困難な状況下において米国で会合を行った点は評価できる。一方で、東日本大震災やイスラエル隣国での国際情勢などの影響により、日本でのセミナーが1回のみにとどまるなど、実質的な交流が研究計画通りに進まなかった点は残念である。

#### (3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

両国の研究内容が補完的である点は評価できる。イスラエル側から特許の申請を検討中とのことであるが今回の成果について日本側からも国内、および海外で特許出願されればなお良かった。